



# Q & A

## よくあるご質問・ご相談



### Q 公務員になるためには、何をいつ頃から始めればよいのでしょうか？

**A** 学部生であれば、直接的な試験対策は3年生(卒業の2年前)から始めれば十分に間に合います。**大切なのは、しっかりとした目標を持って集中的に取り組む姿勢。**公務員に限らず就職活動においては、大学生活の過ごし方、経験と成長が問われます。1～2年生のうち、学業のほか、サークルやボランティアなどで**人との関わりや社会体験を重ね、自分を磨くことも大切です。**

### Q 民間企業か公務員かで悩んでいます。

**A** 一口に公務員と言っても、仕事の分野は多種多様。民間企業でもできる仕事もあります。「民間企業か公務員か」ではなく、**自分が何をしたいのか、どういう人生を歩んでいきたいのか、まずは将来のビジョンを描いてみてください。**ただ、公務員試験対策は時間がかかります。本講座は民間企業への就職活動にも活かれますので、試験対策をしながら進路を考えることが最良かと思います。

### Q 法律や経済の知識が無く、講義についていけるか不安。やはり不利でしょうか？

**A** 公務員採用試験は、法律や経済に関わる科目が多いことは事実です。だからといって、**法学部や経済学部の学生が必ずしも有利とは限りません。**本講座では、どの科目も初学者ということを前提に内容を構成しています。講義に毎回きちんと出席し、しっかりと復習をすれば、法律や経済に関わる科目にも十分対応できるようになります。

### Q いくつかの科目だけ選んで受講することは可能ですか？

**A** **できません。**本講座は公務員採用試験に合格するための最適なカリキュラムで構成されています。**どの科目も合格のために不可欠な講義**であり、すべて受講して初めて最大限の効果を発揮できるものとお考えください。

### Q 大学の授業と両立できますか？

**A** **本講座は、北海道大学の授業時間や学事日程に合わせてスケジュールを組み立てております。**収録講義の配信も行うため、研究や部活動、アルバイト等で忙しい方でも、いつでも好きな時に受講ができます。

### Q 大学生協の組合員でなくても受講できますか？

**A** **北大生協の組合員であることが受講条件**です。未加入でしたら、必ずご加入ください。加入は各キャンパスの購買店カウンターにて手続きができます。加入の際は、出資金20,000円をお願い致します。出資金は、脱退(卒業)時に返還いたします。

### Q 水産学部函館キャンパスでも受講できますか？

**A** もちろん可能です。(第11期生11名、第12期生14名が在籍中です)生講義は基本的に札幌キャンパスで実施しますが、その様子を収録した映像を「講座専用のWEBシステム」から視聴できます。また、**面談や面接訓練**についても、オンラインにていつでも実施しております。もちろん、札幌にお越しの機会があれば「生講義」に参加していただけますので是非ご活用ください。

### Q 受講料以外に、かかる費用はありますか？

**A** 受講料には、テキスト代・スチューデントEQ受診料・二次試験対策サポート代といった料金が含まれております。また、受講生であれば個別相談も無料で受けられます。なお、本講座に直接関わる費用以外にも、「霞ヶ関OPENゼミ」への参加・試験本番・官庁訪問などの際に、交通費や宿泊費などといった費用がかかりますので、前もって心づもりをしておきましょう。

### Q 大学院生なので、研究の都合で欠席が多くなりそうですが？

**A** 例年受講生の1.5割くらいが大学院生(工学、農学、理学、文学など)ですので、研究が忙しくなかなか生講義には出席ができない学生が過去にも多くいました。講義は毎回ビデオ撮影しており、後日オンデマンド配信していますので、図書館や自宅で視聴することで、他の方と同じように合格を目指しています。

### Q 現在学部生で、大学院進学を予定しています。いつ受講するのが良いですか？

**A** 学部3、4年生での受講がおすすめです。院1年生での受講でももちろん十分に間に合いますが、研究等で忙しくなる可能性が高いことと、学部生で受講し学部4年また院1年時に最終合格すると数年間名簿が有効となる試験種も複数あります。講座の延長も可能ですので、詳しくは個別にご相談ください。

### Q 工学以外の理系学部(院)で技術職を目指す場合、どのコースを選択すればいいですか？

**A** 工学以外の技術系科目に特化したコースをご用意していないため、工学以外の方のほとんどは「教養コース」を選択しています。その場合、専門科目についてはご自身で勉強していただくことになりますので、すでにご自身の学部で勉強している内容や、学部の先生、先輩などから情報収集することをおすすめしています。